中部支社 NAGOYA
〒460-0013
名古屋市中区上前津1丁目4番12号
上前津グリーンビル
TEL(052)331−3371 FAX(052)331−3374



# 金属表面保護フィルム専門商社 城山
# 「きれいに貼って、きれいに剥がす」

## 適材適所に困り事解決

アルミ板、ステンレス冷延薄板、表面処理鋼板などの意匠性金属の表面を守る表面保護フィルム。ニッチな産業である一方、加工工程や輸送、保管時には欠かすことのできない存在だ。「きれいに貼って、きれいに剥がす」この相反する機能要求を満たすため、顧客ニーズの捕捉で全国的に存在感を高める表面保護フィルム専門商社の城山（本社＝名古屋市名東区）の加藤隆介社長に話を聞いた。

加藤 隆介氏
城山社長

**――まずは自社の事業内容について。**

「1983年に表面保護フィルムの専門商社として創業した。取り扱うフィルムはアルミ用、ステンレス用、カラー鋼板用、レーザー加工用、精密板金加工用など幅広い。フィルムの種類、厚み、色、粘着剤の4要素の組み合わせで100種類以上の商品があり、保護する素材や環境に見合ったフィルムを提案し、タイムリーに供給する役割を担っている。現在、愛知県内に本社とフィルム加工センター、全国4カ所に営業所を設置している」

**――自社の強みについて。**

「専門商社ならではの高い専門性と、加工機能を活用した小口対応。2010年に大型切断機を導入し、加工事業に乗り出した。その後、狭幅―広幅、長尺―短尺フィルムの一貫生産体制構築を目指し設備投資を進め、現在5台の切断機を有している。フィルムメーカー以外には難しいフィルムの巻き替え加工も行っており、1000㍍巻きなどの原反フィルムを100㍍巻きにした巻き長さ加工など、フィルムメーカーの作業負担軽減とユーザーへの対応力を高めている」

**――どのような専門性が求められるのか。**

「当社は、ユーザーのさまざまな条件（被着体、貼り合わせ、加工、保存、剥離）に適したフィルム選定のお手伝いをしている。そのため、サンプル品を使用した相対評価が重要で、フィルム加工センターには国内外のフィルムや被着体のサンプルに加え、貼り合わせ機や試験機を置くことでスピーディーな提案を可能としている。また、こうして蓄積された過去の知見を生かすことで、トラブルの未然防止に注力している。メーカーとユーザーの橋渡し役として、製品のカタログ表記だけでは判断しづらい点などを見極めている」

**――カタログ表記だけでは判断しづらい点とは。**

「ユーザーにとって最適な商品を提案するためには、フィルムの使用環境や鋼材の種類、加工内容など、あらゆる条件を考慮する必要がある。過去には、ステンレス鋼板を扱うユーザーから、鋼板がまだら模様になったという連絡を受けたことがある。ユーザーは表面（保証面）用に塩化ビニルフィルム、裏面にキズ防止用のポリエチレンフィルムを使用していたが、気温の高い夏季期間に積層保管されたことでフィルムに過剰な負荷がかかり、塩化ビニルフィルムの成分がポリエチレンフィルムに影響したことが原因だった。」

「ステンレス板やアルミ板は長いサプライチェーンの中で複数の加工や保存工程が存在するため、フィルムのカタログ性能だけでは判断が難しい状況もある。商品に関する専門知識を深めるとともに、事例研究や社内研修に力を入れ、フィルムメーカーとの情報交換やユーザーの声をしっかりと聞くことで、歩留まりや生産性の向上に寄与できるよう努めている」

**――メーカーと共同開発を行った自社製品「さすが！ECOピカッ！！」もユーザーの困り事解決を目的としている。**

「フィルムではなく粘着剤除去剤になるが、近年主流となるアルミやステンレスのファイバーレーザー加工では、加工時に発生する熱によって専用の表面保護フィルムが鋼材に溶け残ってしまうことがある。これに対し、一般的にはシンナーなどで除去をするが、人体への悪影響も懸念される状況を受け、溶剤メーカーと環境対応型の粘着剤除去剤『さすが！ECOピカッ！！』を共同開発した」

**――今後の方針は。**

「10年から取り組んだ設備投資はひとまず完了した。自社加工の比率は4割ほどに高まっているが、フィルムは主役である意匠性金属板に付随する副資材の一つで、板金加工技術の変容に合わせた形が求められる。表面保護フィルム業界で、適材適所に必要な量を供給できる、コイルセンターのような役割を目指したい。その中でユーザーの困り事を解決するため、従来の営業とは別軸の営業企画室を立ち上げ、ニッチな業界であるがゆえに見過ごされてきた課題などに対し、新たな商材の開発や環境問題への配慮などに取り組んでいく」

（菊川 熙大）